

第4回 社会保障・税に関わる番号制度に関する実務検討会 議事要旨

日 時：平成23年1月28日（金）18：00～18：20

場 所：合同庁舎4号館1208会議室

出席者：与謝野 馨 社会保障・税一体改革担当大臣

末松 義規 内閣府副大臣

小川 敏夫 法務副大臣

五十嵐文彦 財務副大臣

和田 隆志 内閣府大臣政務官

逢坂 誠二 総務大臣政務官

小林 正夫 厚生労働大臣政務官

田嶋 要 経済産業大臣政務官

峰崎 直樹 内閣官房参与

亀井亜紀子 国民新党政務調査会長

古本伸一郎 民主党税制改正PT事務局長

1. 与謝野社会保障・税一体改革担当大臣より冒頭挨拶。挨拶のポイントは以下のとおり。

- 社会保障・税に関わる番号制度は、今まで長い間まったく手つかずで来た課題。
- この番号制度は、社会保障や納税に革命的な変化をもたらすものだとの認識。
- 基本方針まで来たので、夏までに大綱をまとめて、秋の臨時国会で法案を通すという使命感を持って取り組んでいただきたい。

2. 峰崎内閣官房参与より、「社会保障・税に関わる番号制度についての基本方針（案）」の内容を説明し、内容についての意見交換の後、原案を実務検討会の基本方針案として政府・与党社会保障改革検討本部に報告することを了承。

3. 意見交換（主な意見は下記のとおり）

- 社会保障分野は、国民生活に密着しているため情報連携の実現によって期待されるメリットが非常に大きい反面、機微な情報を多く取り扱う分野である。このため、設置予定の社会保障サブワーキング・グループにおいて、社会保障分野の特性を踏まえた、必要となる制度的・技術的な措置について十分な検討をしていきたい。
- 昨日開催した民主党の「社会保障と税に関する抜本改革調査会・税制改正PT合同会合」では、党側の提言では現物給付は射程に入っていなかったことから番号の利用範囲について懸念を示す意見や、プライバシーの問題について意見があったが、

基本方針で示されている方向性については、総体として了承である。

- 番号の利用範囲については、議論をしながら、国民の要望も踏まえながら進めていきたい。
- 国民新党では、税務分野と社会保障分野での利用からスタートすることで了承しているが、なるべく幅広い行政分野で利用できるようにして欲しい。制度設計・システム設計については、付け足しを繰り返して変なシステムとならないよう、将来的に利用範囲を広げることを前提として作ってほしい。

4. 基本方針（案）の了承を受け、与謝野社会保障・税一体改革担当大臣より挨拶。挨拶のポイントは以下のとおり。

- 今後のスケジュールは非常に重要。ここに基本方針が一応定まって、3月から4月には社会保障・税番号要綱が策定され、6月には社会保障・税番号大綱の策定になる。この間は大変だと思うが、目標に沿って努力していただきたい。
- 長年の社会保障制度の課題に、今日歴史的な第一歩を踏み出した。秋に向けて一歩一歩進んでいくことを、皆さんと一緒に祈り、誓いたい。

～以上～